

平成25年度

## 第2回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー(1日目)

～認知症の本人と家族を地域で支える体制を築いていくために～

2013年10月17日～18日  
認知症介護研究・研修東京センター



## ようこそ！ 全国合同セミナーへ

あいさつ 認知症介護研究・研修東京センター  
本間 昭 センター長



吉祥寺・井之頭公園 秋

認知症になっても  
 住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができるように。  
 北海道から沖縄まで、すべての市区町村で  
 わが地域ならではの、一步一步を。



## 平成25年度第2回合同セミナー参加者概要

区分	参加自治体数	参加人数
都道府県	9	10人
市区町村 <small>(行政担当者、地域包括支援センター、推進関係者等)                      * 広域連合含む</small>	72	106人
認知症 疾患医療センター	5	5人
合計	-	121人

\* 参加自治体名、人口・高齢化率は一覧参照

## 合同セミナーの目的

(平成23年6月6日老発0606第6号老健局長通知)

全国各地の自治体の認知症施策の担当者・推進役の人が参加し  
認知症地域支援体制構築に関する情報を共有し、普及をはかる。  
(認知症地域資源連携資源連携事業)

すべての自治体が効果的・持続発展的に取組みを推進するために  
ポイントは何か

全国各地の取組み事例の  
整理・分析に基づいた  
資源連携・地域支援体制構築の  
あり方を提示

取組みの具体的な事例は

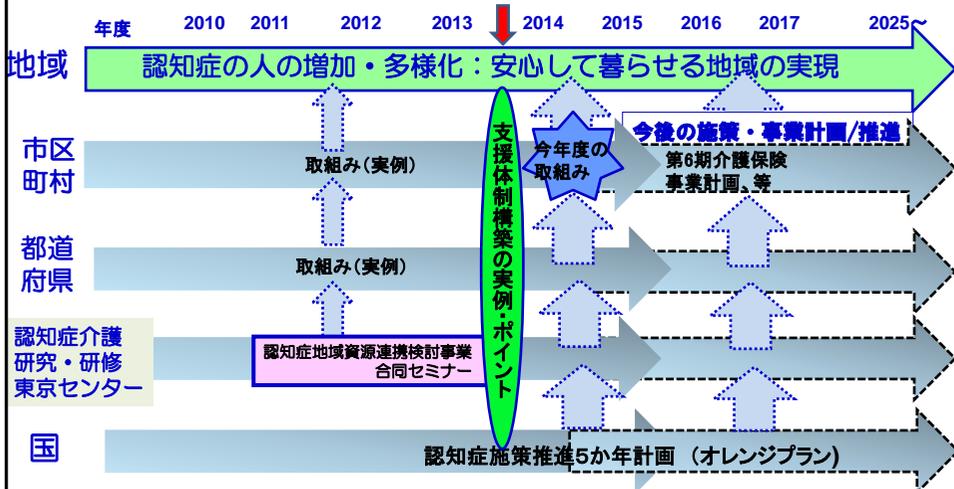
認知症地域支援体制構築に  
ついて先進的な取組みを  
している自治体の担当者から  
事例報告等を行う

自治体担当者・推進役の人が自地域の取組みについて一緒に考える

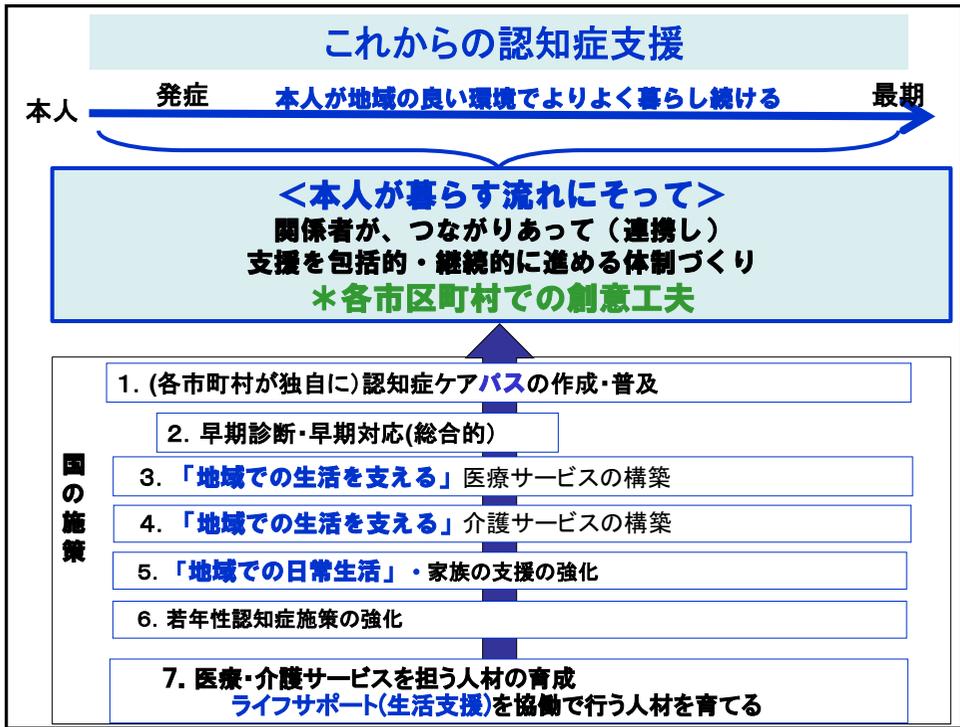
各自治体/地域に帰って

内容を地元で周知+自地域の取組みに具体的に活かす

## この合同セミナーの位置づけ

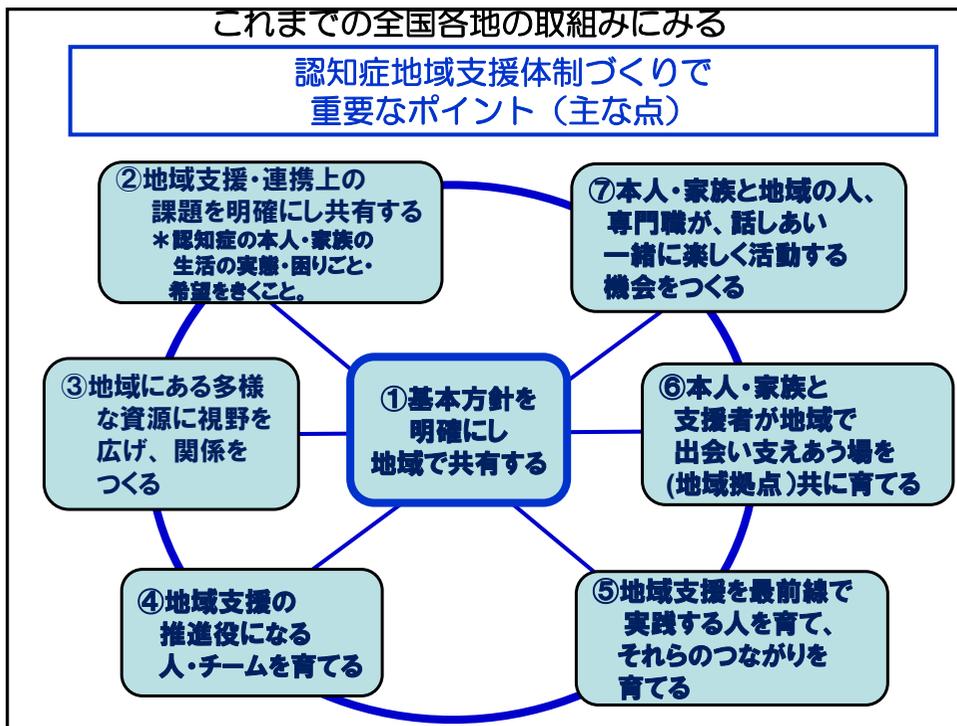


地元で暮らす一人ひとりの本人・家族に行き届く支援にむけて  
⇒それぞれの立場を活かして重層的な推進力を高める。



のびのびと

# 1. 認知症の人と家族を地域で支えあう体制を築いていくためのポイントと工夫の実際



◆各地の担当者が語る

資料参照

自地域の取組みのポイントと工夫:その1

1) 認知症の人の経過にそった連携と支援体制作り (資料1)

京都府舞鶴市保健福祉部高齢者支援課

児玉 智子さん

松原 理恵子さん

2) まちで、みんなで認知症の人をつつむ (資料2)

～認知症の人が地域で生き生きを支えるために～

小地域(校区)で暮らす人々とともに進める

計画作りと多職種協働・地域協働

福岡県大牟田市保健福祉部長寿社会推進課

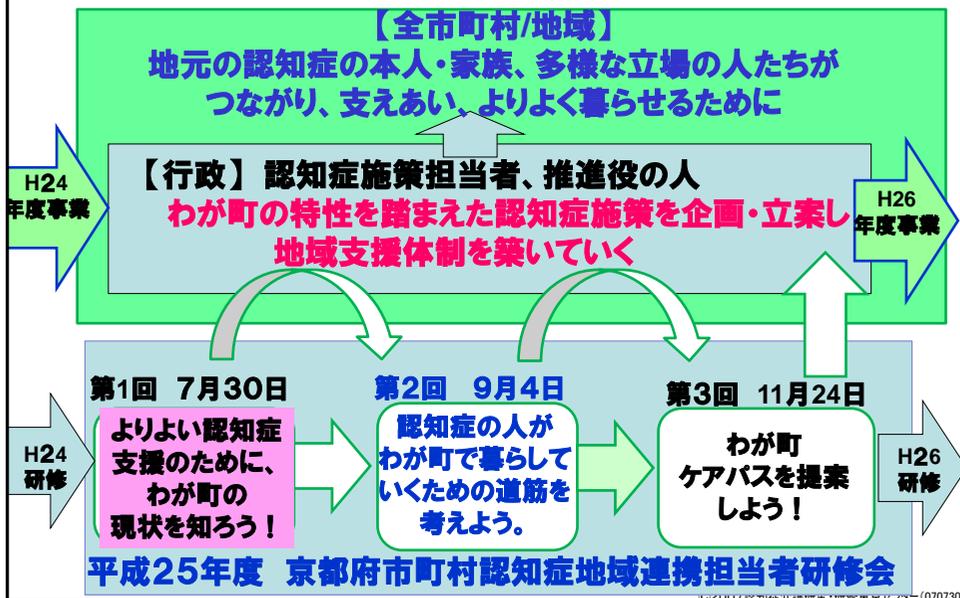
吉澤 恵美さん

福岡県大牟田市中央地域包括支援センター

猿渡 進平さん

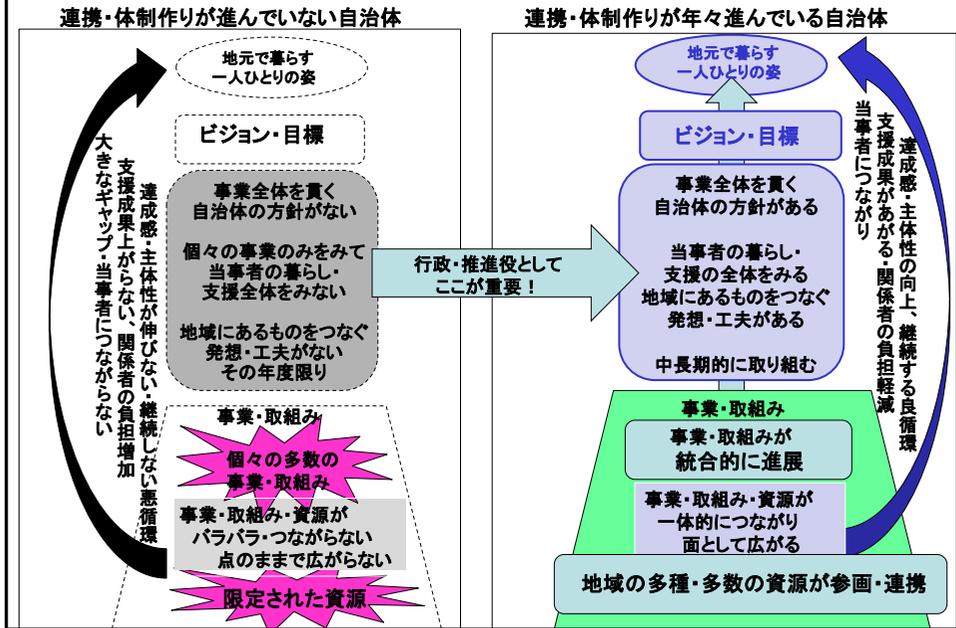
参考: 京都府として市町村をバックアップする取り組み

府が、市町村の担当者・推進役に集まってもらい、当事者に行き届く地域支援体制づくりを企画・展開していくことをバックアップする研修を継続的に開催

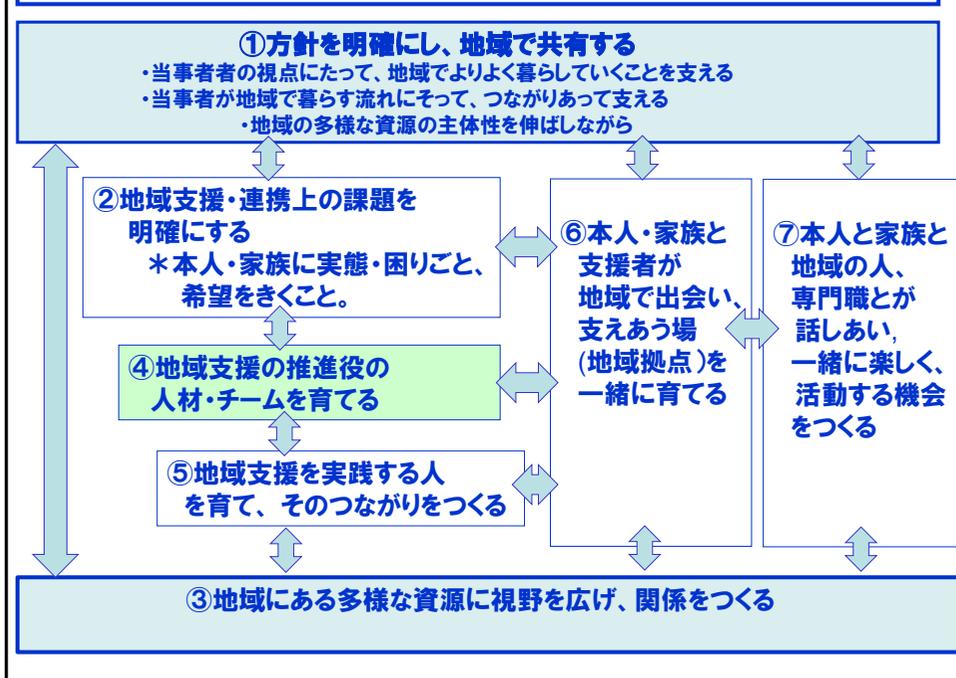


## 認知症地域連携・支援体制作りのポイント

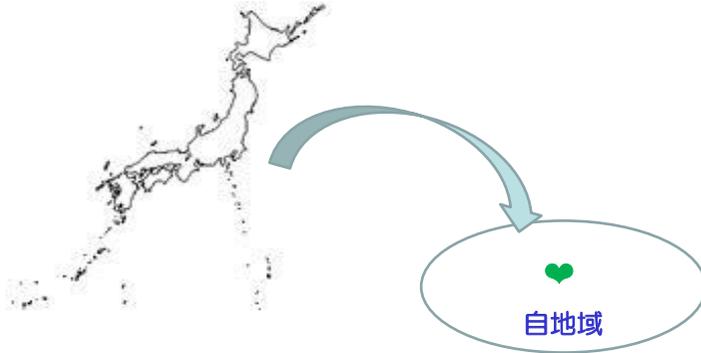
違いはなにか：自治体事例の分析結果より



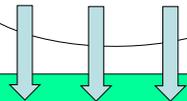
ポイントをつながげながら、有機的・効率的に事業や取組みを進めよう。



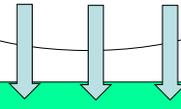
## 2. 他地域の情報を活かそう



取り組み紹介



取り組み紹介



自分の自治体/地域に活かしたい点は・・・

- \* 大事にしている考え方や方針
- \* 施策や事業の企画・アイデア
- \* 実施する過程での工夫 等

ワークシート1-1で、整理してみよう。

## ワークシート1-1

### 1) 個人ワーク \*まずは、各自が考えてみよう。

前半の情報をもとに、自分や自地域に「活かしたい点」を整理してみよう。

- (1) 自分自身の考え方や取組み姿勢に活かしたい点は…
- (2) 自分の自治体・地域の取組みに活かしていきたい点は…
  - \* 特に、事業・取組みの進め方や工夫について
  - \* 直近・年度内のみでなく、将来的な観点からも



ワークシート1-1にメモを

## ワークシート1-2

### 1-2 自地域の取組みの特徴は・・・

- ・自地域で大事にしている方針、工夫は…
- ・現在、事業・取組みを進めていく上で課題になっていることは…



ワークシート1-2にメモを

## グループワークメモ

### 2) グループワーク：他地域メンバーと話しあおう

- まずは、各自が自己紹介を  
お名前、地域、立場、  
自分の自治体の一言PR
- 情報交換  
ワークシートに書いたことにそって、  
各自が順番に伝えよう。  
\*「活かしたい」と考えた点  
\* 自地域の取組みの特徴と課題

☆話しあったことが消えてしまわないように、メモを残そう。  
⇒明日の検討の大事な情報原  
⇒地元に戻ってからの伝達・共有・推進のための情報原

## ワークシート1-3

### 1-3. 自地域のこれからの展開にむけて

\* 報告やグループワークの情報をもとに整理してみよう

- ① これからの事業や活動を展開していく上で  
自地域での行政・推進役として強めていきたい役割は・・・
- ② 事業や取り組みに活かしたい自地域の資源やつながりは・・・
- ③ 今後、できる工夫・やってみたいことは・・・

◆ まずは、個人で考えてみよう



ワークシート1-3にメモを

## グループワークメモ

### ◆グループで伝え合い、討議をしよう

- ①これからの事業や活動を展開していく上で  
自地域での行政・推進役として強めていきたい役割は・・・
- ②事業や取り組みに活かしたい自地域の資源やつながりは・・・
- ③今後、できる工夫・やってみたいことは・・・

・ワークシート1-3のメモを伝え合いながら  
①～③のテーマを中心に話しあおう



「グループワークメモ」シートに  
参考にしたい点をメモしておこう

## ～ 情報交換会 ～

### ○報告地域の関係者と直接会って、話しあおう。

- ・具体的なことを質問しよう。
- ・自地域に役立てたい内容・資料等の  
詳しい説明をきこう。
- ・担当者同士ならでの、悩み、アイデアを  
話しあおう。

### ○参加者同士、話しあおう。つながろう。

- ・今日の感想、気づいた点、深めたい点
- ・お互いの地域の紹介、具体的な情報交換
- ・今後もやりとりできるために  
名刺交換、資料等の交換、

☆顔をあわせた機会だからこそこのやりとりを！

平成25年度  
第2回 認知症地域支援体制推進  
全国合同セミナー（2日目）

～認知症の本人と家族を地域で支える体制を築いていくために～

2013年10月18日  
認知症介護研究・研修東京センター



～本日の進め方～

ようこそ！合同セミナー2日目へ。

昨日の4時間の体験は、いかがだったでしょうか？

今日は、同じ地域/比較的近い地域の人たちと一緒に、  
ワーク⇒情報提供⇒ワークの順で、話しあいを重ねていきます。

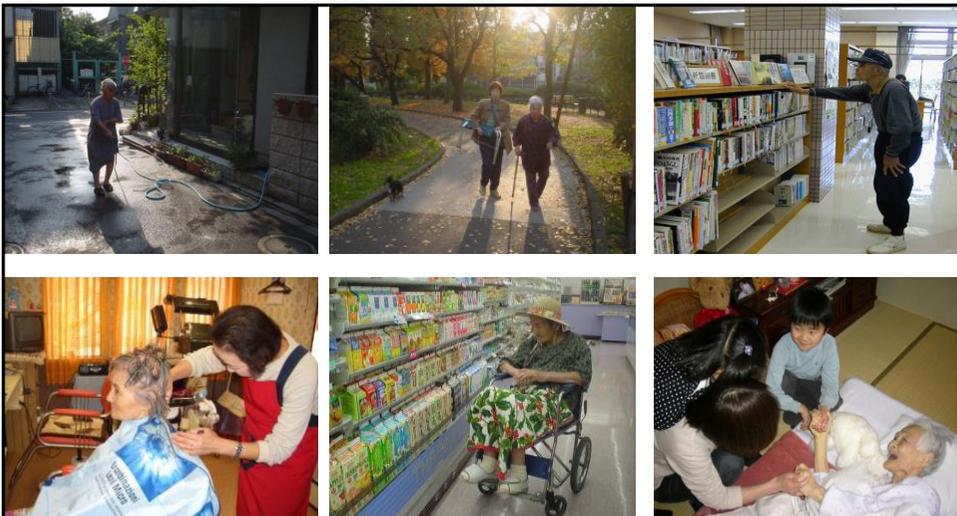
情報を氾濫させたままにせずに  
これからの取組みをよりよくしていくために  
自地域で何ができるか、具体的な。

- ⇒ 帰ってからやってみたいこと、  
その進め方の手がかりを具体的につかんでください。
- ⇒ ワークシートを活かそう！  
大事な点を、シートに残そう。
- ⇒ グループの仲間を大事に！



☆日頃は縮こまりがちな視界や発想を伸び伸びと広げて、  
アイデアを出しあいましょう。

☆「自分自身の地域での暮らし、つながり」を大切にしながら、  
認知症があっても、安心して自分らしく、地域の中で暮らして  
いくために、何が必要で、何をすべきで、できるか。  
自分の地域を思いおこしながら、具体的に考えていきましょう。



これから・・・  
どう暮らしていけるか

## 4. 他地域情報を 自地域の今と今後に活かそう

### ワークシート1

#### 1) 1日目の情報や知見をもちより、話しあおう

\*まずは、自分で  
昨日の報告やグループワークの情報をもとに  
整理してみよう

- ① これからの事業や活動を展開していく上で  
自地域での行政・推進役として強めていきたい役割は・・・
- ② 事業や取り組みに活かしたい自地域の資源やつながりは・・・
- ③ 今後、できる工夫・やってみたいことは・・・



ワークシート1-3を書いてみよう

グループワーク

(まずは自己紹介を)  
・地域、所属、立場等

- ①各自が順番に  
昨日の情報・気づきを  
伝え合おう  
\*昨日のワークシート  
を活かしながら

・情報共有  
・討議

- ②自地域の取組みに  
取り入れたい点、  
活かしたい点は？
- ③強めていきたい役割は？
- ④活かしたい自地域の  
資源・つながりは？
- ⑤できる工夫・  
やってみたいことは？

\*他地域情報をもとに、視野とアイデアを広げよう

2)わが町にいる人・あるものがつながるための  
アクションを生み出すためのプロセスと工夫の実際

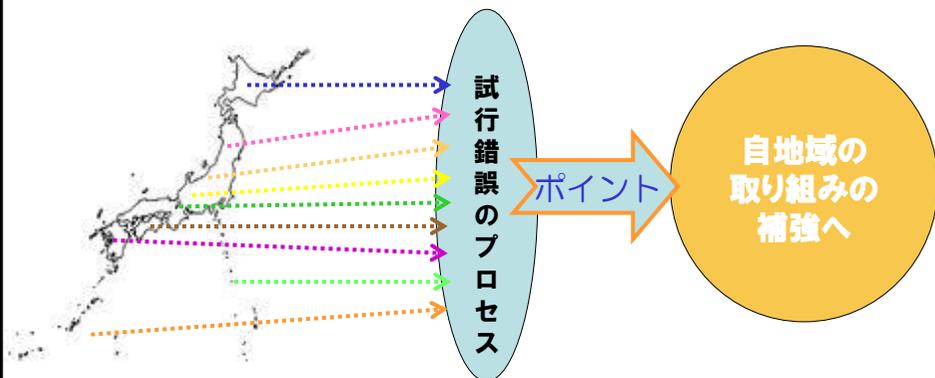
◆各地の担当者が語る  
自地域の取組みのポイントと工夫:その2

新潟県湯沢町 地域包括支援センター  
國松 明美さん

新潟県湯沢町 認知症地域支援プロジェクト  
「アクション農園倶楽部」団長  
丸山 清二さん

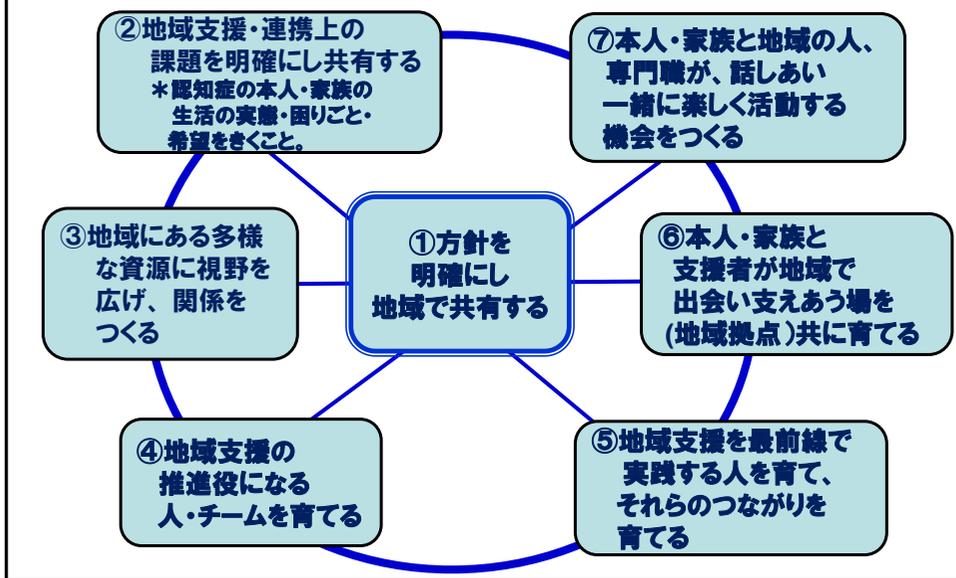
## 5. 認知症の人が暮らす流れにそった 地域支援体制作り

- 1) 認知症施策を着実に進めていくための  
基盤としての地域支援体制づくり  
全国各地の取組み情報を活かしながら



これまでの全国各地の取組みにみる

認知症地域支援体制づくりで  
重要なポイント（主な点）



ポイント①方針を明確にし、地域で共有する

こういう方針  
「……………」で  
一緒に進んでいこう！



## これからの認知症支援

本人 発症 本人が地域の良い環境でよりよく暮らし続ける 最期 →

### \*各自治体での、独自の総合的な施策・取組みを進める

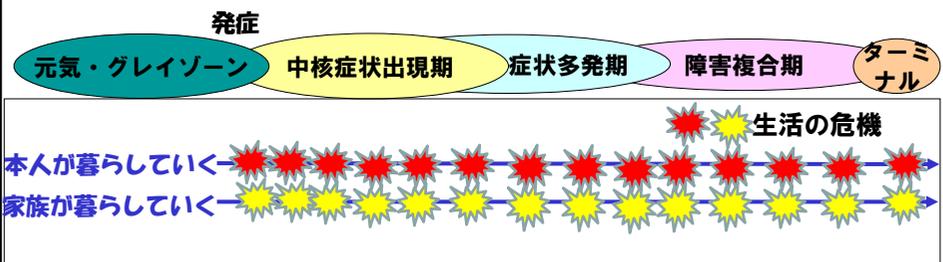
- 地元で暮らす当事者の目線で
- あるものとことん活かして
  - ・**地元にあるもの** (いる人財・組織・場・もの・金・風土・文化等)
  - ・**地元にないが**、周囲の地域、圏域、県内、県外、国にあるものを活かして
- \*オレンジプランや補助金等を、地元のために、地元に向うように活かす！**

国の施策

1. (各市町村が独自に) **認知症ケアパス**の作成・普及 (国:標準的なパス)
2. **早期診断・早期対応(総合的)**
3. 「**地域での生活を支える**」医療サービスの構築
4. 「**地域での生活を支える**」介護サービスの構築
5. 「**地域での日常生活**」・家族の支援の強化
6. 若年性認知症施策の強化
7. 医療・介護サービスを担う人材の育成  
**ライフサポート(生活支援)**を協働で行う人材を育てる

本人と家族は、発症から最期まで、長い経過を辿っている。

- \*ごく初期段階から、不安、混乱、生活の危機に直面しています。
- \*経過の途上で、不安、混乱、危機の内実が変化し続けます。
- \*本人、そして家族は、共振れしながら長い経過を暮らしていきます。



認知症関連の多様なサービスや人材が次々増えてきている。

その一方で、地域で暮らす本人と家族は、危機を回避したり、  
危機から脱して地域で安心して暮らせるようになっているでしょうか？

あなたの地域では・・・？



断片的な取組みや数を増やすだけでは、解決しない。  
施策をどうつくるか、介護保険、オレンジプランをどうするか、といった  
提供側の視点では解決しない。

☆今必要な視点は:当事者が暮らす視点  
～自分ごととして考えてみよう～



現実には・・・方針が不明確、関係者間でバラバラ

⇒話しあいや取組みを積み重ねても、一致できない(対立しがち)。  
力が結集しない。

古い価値観・声の大きい人に引きずられ、進展しない。

\*多様な関係者、住民が、同じ方向を向いて協働していくには、  
「何を大切に取組んでいくか、行政としての方針」を  
明確に掲げる、共有していくことが不可欠！

☆共通方針を  
しっかりと打ち出すことで  
職種や立場を越えた共通認識と  
つながりが育つ！

☆専門職はもちろん  
行政事務職が、  
方針をしっかりと語っている  
自治体は取組みが進む！

\*方針を、行政内部や一部関係者内での共有にとどめず、  
様々なチャンネル・方法を通じて、  
地域の多様な関係者(医療・介護・福祉関係者、住民・地域の人)に  
発信し続けよう。

\*方針が 地域で「あたりまえのこと」、「自然なこと」となるように。



## 参考

取組みを着実に進めている地域に共通した方針

- ①当事者が暮らす視点で考え、動く。
- ②「地域の中で生活すること」を支える。
- ③わが地域の固有性を大事にする。
  - ・よそに目を奪われずに  
わが地域を大切に  
わが地域にあったものを  
マイペースでつくっていく。
  - ・あるものを、とことん活かす  
など

## 方針1.当事者(人)が暮らす視点で考え、動こう

行政担当者と推進役の人、関係者が  
当事者視点に立とう・共有しよう。

自分から当事者視点を素朴に提案していこう(つぶやいていこう)  
自分事として…

- ・技術職(保健師、介護職、OT、医師等)が提案し進んでいる地域
  - ・事務職の人が(素朴に)提案したことで進んだ地域も多い。
- \*あたりまえの感覚・発想で



- ・実態把握
- ・課題、資源・方策の検討、会議等
- ・様々な事業・取組みの運営・実践
- ・施策づくり

\*すべてのシーンで当事者視点を徹底、揺らがない(つぶやく)

### 地域事例①「本人が暮らす視点」の大事さを感じた行政職員が 行政職員向けに「当事者に学ぶ」研修会を企画・提案・実施



**「本人が暮らす」視点で一緒に考えよう・動こう！**

<参加者アンケートより>

- ・公務員は、この講座の受講を「必修」とした方がよい。
- ・本人の勇気ある発言に、そして人生を楽しむという姿勢に拍手。
- ・認知症の方からの直接生の声が聞けてよかった。どんな支援を望んでいるのか、目からウロコです。
- ・今までの認知症についての知識が偏っていた事を教えて頂きました。当事者の声を聞くことにより、自分に何か出来ることは何か、改めて考えてみようという気持ちになりました。

## 地域事例② 啓発講座を担当者が本人視点で見直した地域

毎年同じ啓発講座を繰り返していたが・・・  
聞く一方、マンネリ、参加者がじり貧  
「認知症にはなりたくないね～」という感想  
☆当事者からみて、役立つ研修になっているのか・・・。



「この町で暮らしていくこと」を参加者同士で  
自分事として話しあってみる企画にリニューアル  
⇒自分ごととして考えると・・・参加者の真剣さアップ！  
支えあいたい思いがたくさんでる。  
すでにあった支えあい、つながりが浮かび上がる  
⇒行政、包括とつながって活動する人がでてくる  
＜「参加者」から、「共に考え動く人」へ＞

43



## 地域事例③ 地域の様々な講座・研修を本人視点で統一した地域

本人視点で：本人が暮らす目線で考え・動こう、自分事として



家族介護者の研修

住民、地域で働く人の講座・研修

包括支援センター職員の研修

介護職員、福祉職員の研修

かかりつけ医・サポート医等の研修



地域の多職種研修

**本人視点での多職種・多資源研修を開催している地域**

- ・本人は、どう暮らせている？
- ・本人は、どんな暮らしを願い、どんな支援を求めている？
- ・本人がよりよく暮らせるために、何が必要？
- ・お互いが一緒に何ができる？



**地域事例④実態把握や会議を、本人視点で進めている地域**

○実態把握：問題点のみでなく、**本人の体験、生活、願い、力**を把握

○会議、検討会等：一例一例のケースを大切に積み上げ、  
本人が（地域で）暮らしていく上での課題、  
必要な支援を、本人視点で検討

**⇒☆個別支援の充実+地域課題・地域支援の充実**

\*本人の経過にそって、事実、本人・家族の声を確認しながら

\*多様な立場、職種の人達が一緒に検討



**☆会議等の進行役は、行政事務職がやると効果的！**

⇒「本人は、どうなんでしょうか・・・」をひたすらつぶやく。

⇒（専門職でない）普通の人言葉、願いを大事に：

プロの視点・発想を、行政職が「人中心」に変えていく

⇒行政事務職の存在が、プロに知られ、関係が育つ

**方針2. 認知症の人が「地域の中で」生活していくことを支える**

- \* 人としてあたり前の願い
- \* 「地域」は、認知症の人の安心・安定、生きる力の源  
＝進行予防、行動心理症状(BPSD)の予防・緩和の鍵)
- \* グループホームや施設に入っても、地域の一員として

**⇒ この方針を明確にしていないと陥りやすい状況**

- ・ 認知症の人が地域で暮らせる可能性をみないまま、無理、危ない、早く入所・入院を、と決めつける人が減らない。  
◆**地域の人のみでなく、医療・介護職、行政職の中にも**
- ・ 家や施設・病院の中だけで暮らしている認知症の人がたくさんいても無関心、仕方がないとあきらめる。



**本人が求めている地域とのつながりを、ひとつひとつ支えていく。**

- \* 人としてのあたりまえの願いを、あきらめずに方針として。
- \* 行動心理症状を減らし、自立度・体調を保つ鍵！



あの人に会いたい。なじみの道を散歩したい



あそこの花を今年も見に行きたい。



あそこに行ってきれいになりたい。



あそこで買い物したい。



同窓会に行きたい。

**地域を舞台に支えたと・・・認知症の人の底力が発揮される！**  
**支えられる一方ではなく、地域で働き、**  
**地域を支える一員として活躍する本人の姿**



地域の人の繕いもの役



忙しいお隣の草取り



町の花壇ボランティア



保育園の助っ人役



子供を守る:散歩中に  
防犯パトロール



ご近所の掃き掃除  
町内会から表彰状

**地域の中で、実際に生き生き暮らす本人の姿が、**  
**地域の人々の偏見を解消し、理解と支援を広げる大きな推進力になる。**

### 方針3. わが地域の固有性を大事にする。

- ・よそに目を奪われずに、わが地域を大切に  
わが地域にあったものを、マイペースでつくっていく。
- ・あるものを、とことん活かす

⇔ この方針を明確にしていないと陥りやすい状況

- ・わが地域や当事者をみないで、  
国施策や他地域情報に翻弄され続け、  
計画づくり・事業・取組みをやってもやっても、賽の河原・・・。
- ・地域の実情や力にあった施策・事業・取組みにならず  
一部の人たちの範囲で抱え込み、取組みが広がらない。
- ・行政や医療、介護にお任せの人、過剰な依存が増える一方。



**わが地域にいる人財をとことん活かしている地域**

愛媛県久万高原町 高齢者率50%に近い。資源不足・・・？

風景・四季も、かけがいのないわが町の資源！  
四季を活かしたダイナミックな地域づくりをしています。  
元気な人、認知症の人の心が自然につながる



桜祭り:一緒に桜餅づくり



・介護予防  
・孤立防止  
・自然な相談

誘い合って川岸散歩



一緒に、自然に浸りに



蛍を見に:子供たちも一緒に

## ポイント②地域支援・連携上の課題を明確にする

○自地域で暮らす認知症の人・家族の生活と支援の実態、困りごと、要望・希望を具体的に把握し、本人・家族の視点にたって課題を検討する。

\*本人・家族の声、関係者の声を、丁寧に聴く

\*地域にある統計や既存情報を集約する

→得られた情報を、多様な関係者で検討する。

「これ抜きには、やってもやっても空回り。  
暗闇にむかって矢を放っているよう。」

「本人・家族が必要としていることにつながらない。  
ほんとうの成果がでない。  
効率が悪い。  
やってる人たちの達成感が生まれない。」

○当事者の声を聴く過程自体が重要な支援。  
→その過程でつながりや成果が生まれる場合も多い。

○地域で暮らす本人・家族にとっての必要性、  
優先順位の高い課題の焦点化をおこなう。  
→課題を具体化していく過程で  
すぐできることも多数みつける。

○課題を明確にしていくプロセスを  
当事者、地域の関係者が協働で行う  
→この過程で方針の共有、取組みの一体感が生まれる。

○既存のデータ、相談(記録)等を徹底的に活かす。  
\*自治体全体と同時に、  
生活圏域(小地域)ごとの課題の具体化を

地域事例⑥ 市全体としてみているだけでは進まない  
本人・家族が暮らす小地域ごとの統計を  
行政・包括がつくって活かしている例

	人口	65歳以上人口				事業所数	
		(構成比)	男性	女性	前期	後期	従業者数
川西市	161,203	40,371 (25.0%)	18,205 (11.3%)	22,166 (13.8%)	23,590 (14.6%)	16,781 (10.4%)	3,971 38,819
久代小地区	8,826	1,980 (22.4%)	914 (10.4%)	1,066 (12.1%)	1,209 (13.7%)	771 (8.7%)	353 4,300
加茂小地区	11,395	2,907 (25.5%)	1,278 (11.2%)	1,629 (14.3%)	1,666 (14.6%)	1,241 (10.9%)	274 2,538
川西小地区	13,490	3,554	1,472	2,082	1,910	1,644	627

\*まず既存統計を活かして小地域統計作成 (資料1参照)  
▶一目でわかりやすい図示の工夫  
▶関心・参画が高まる

	全市	多田地区	多田東地区	グリーンハイツ地区
キャラバンメイト (住民100人当たり)	181 (0.112人)	13 (0.124人)	13 (0.096人)	19 (0.124人)
認知症サポーター (住民100人当たり)	2,779 (1.724人)			
配食ボランティア (住民100人当たり)	364 (0.226人)			

注: 次の数値を、全市平均を1.00として指数化している  
「65歳以上人口」: 65歳以上人口の全人口に対する構成比  
「キャラバンメイト」「認知症サポーター」「民生児童委員」「地区福祉委員」「ボランティア」「配食ボランティア」:  
人口100人当たりの人数  
「I-I」「II-M」「III」: 在宅している要介護認定者のうち、認知症自立度が「I」から「III」と判定されている人、「III」  
からMと判定されている人の人口構成比  
「在宅の要介護・要支援認定者」: 在宅している要支援・要介護認定されている人数の人口構成比  
「要支援1-2」「要介護1-2」「要介護3以上」: 在宅している認定者の要介護度別人数の人口構成比

全市のキャラバンメイト数、認知症サポーター数は、地域計のみとしており、その実数で指数化している。

**小地域統計をもとに小学校区ごとに話し合ってみた。**

**地域の多様な人々に呼びかけて**

⇒ **自分の地域の統計・実態・課題を話しあう**

⇒ **この地区で何が必要か**

**それぞれが何ができるか、一緒に何ができるか**

☆ **小地域データがあると**

**参加者の関心・主体性がアップ!**



**統計をもっている**

**多様な部署・分野との**

**連携のきっかけにもなる**

(警察、消防、防災、商工、教育、  
環境、等・・・)

**地域事例⑦一例一例、事例をとにかく大事に  
個別課題・個別支援を大事にしながら  
地域課題・地域支援を展開している地域**

- **支援困難なケース**
  - ・行政窓口、包括への相談ケース
  - ・ケアマネの困難ケース
  - ・民生委員さんが苦慮しているケース

- **地元でうまくいったケース**
  - ⇒ ☆このケースの検討がとても効果的!  
頑張っている最前線の人たちの応援にもなる。



☆ **地道だけれど一例一例の積み上げが結局は一番効率的!  
急がば、回れ!!**



**ポイント③地域にある多様な資源に  
視野を広げ、関係をつくる**

地域にある保健・医療・介護・福祉の資源を活かすと同時に  
脱領域で。

既成の発想を超えて  
わが町の特徴を活かそう。

自地域には、すごい人が眠っている。  
思いがけない人が、思いがけない発想とパワーを出す。  
当事者につながるつながりを生み出す。  
認知症地域支援のイメージが変わる！  
地域の元気がでる！

## 元気なときには気づきにくい「地域の宝」

当事者が地域で暮らす目線にそって

「地域の宝」を(再)発見しよう！ 出向いてつながりをつくろう！

**\* 早期受診、見守りや生活支援、介護サービスにつながる足場になる**

1. 本人がなじみの場所、町にある資源とつながりつづけられるように  
散歩道、外出先、買い物、外食、美容・理髪、飲み屋、お参り、  
しゃべり場、様々な科の医療機関、鍼灸院、整骨院、  
薬局・ドラッグストア、ガソリンスタンド、交通機関、等

戸外の風景・自然、文化も重要な資源

2. 本人が力を発揮して、伸び伸び楽しく暮らせる機会をつくるために

- ・地域にある楽しみ場、趣味の場、**運動の場**
- ・働き場所：ちょっとした得意な仕事をできるように
- ・地元の知恵袋としての活躍の場(保育園、学校、公民館等)

例：子供たちや若い世代に知識や技を伝授、教養・歴史の語り部等

ふだんのネットワークの網目を細やかに

SOS時、災害時に威力

視界や発想を広げると・・・

⇒事業や取組みが思いがけなく展開していく。

\* 福祉・保健・医療以外の異分野の

資源が、地域支援・連携の起爆力。

\* 他領域とのつながりが、新たな解決力を生む。

\* 従来の縦割り問題の解消の近道。

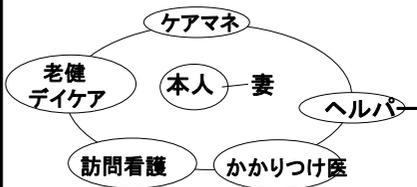
\* 取組みが豊かで、生き生きしたものになる。

\* 取組む人たちが、面白くなる。やる気がでる。

伸び伸びと自発的な力を発揮する。

⇒持続発展的に取組みが進展する。

**地域事例⑧ 本人視点にたって、本人の暮らしや地域とのつながりを見直し、  
本人がよりよく暮らすためのつながり・支援を増やしていった例**



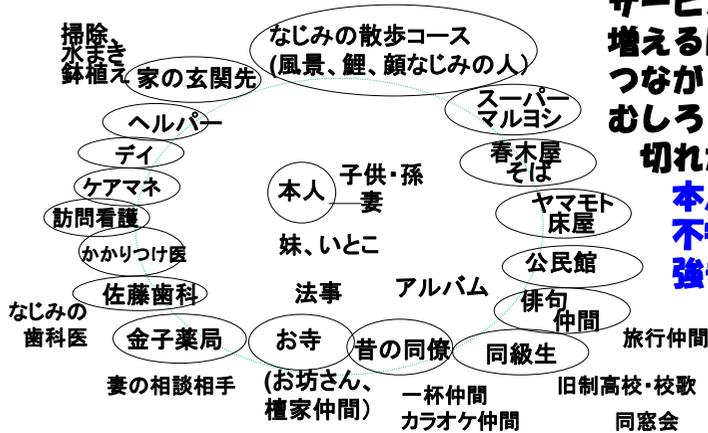
それぞれにケアや連携をしていた・・・  
つもりだったが、  
あらためて、  
本人や家族の声を聞きながら  
「わたしの支援マップ」  
(センター方式A-4シート)  
に書き込んでみた

**\*本人の視点に立ちながら・・・**

本人のなじみの場や人は・・・  
本人が行きたいところは・・・  
会いたい人は・・・



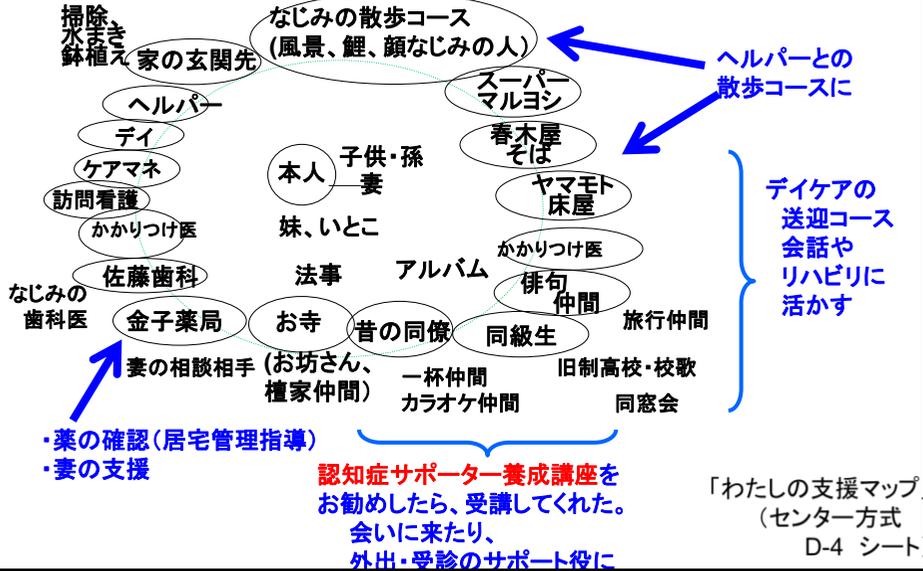
**本人がこれまで築いてきたつながり、そして自分らしい暮らし方が  
「A-4 わたしの支援マップ」を通じて浮き上がってきた！**  
・家族、本人、関係者からの、「ちょっとした情報」を寄せ集めながら



**サービス利用が  
増えるにつれて  
つながりが  
むしろ  
切れかかっていた  
本人・家族ともに  
不安・ストレスが  
強まり、孤立し  
かけていた。**

**地域資源のひとつ、ひとつ  
本人にとっては 安心・よろこび・活力・自分らしさの源**

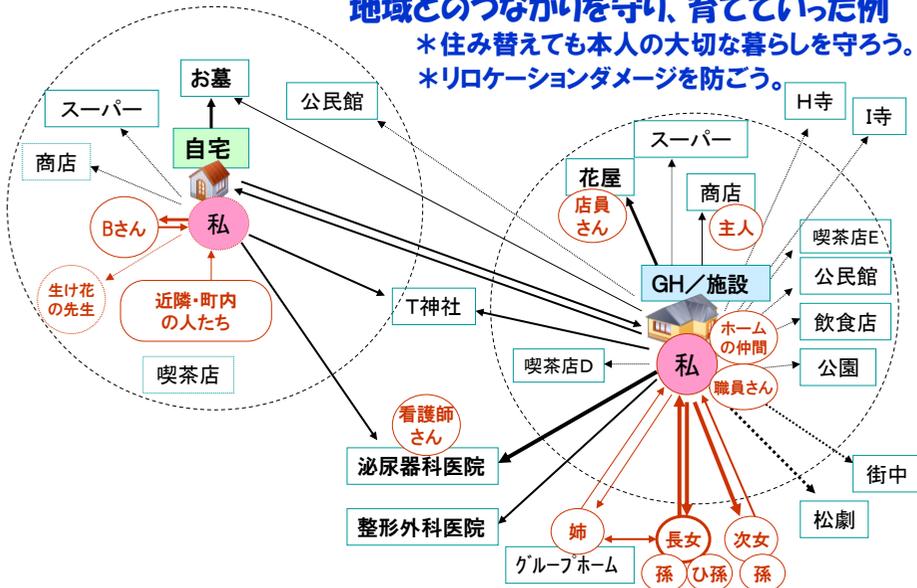
**ケア職員だけで抱え込まず、地域の力を借りよう**  
 ⇒ケア職員の素朴な声かけで、地域の多くの人を支え手に  
 ⇒本人・家族が安心、生活が広がり、状態も安定  
 ⇒成功体験を共有し、別の人への一緒にの支援が広がる



**地域事例⑨ 住み替え時に本人の地域資源を共有・バトンタッチしている地域**

**独居、自宅での生活限界となりグループホームへ入居前後に地域とのつながりを守り、育てていった例**

\*住み替えても本人の大切な暮らしを守ろう。  
 \*リロケーションダメージを防ごう。



## 地域にいる、ある資源をみつけ、活躍できる機会を

### ・専門職

特に、地域密着型サービス事業者  
認知症介護指導者 等

先生、としてではなく地域で一緒に悩み、  
語り合い、創りだしていくパートナーとして

### ・多様な世代、立場の人

\* 行政ならではの立場を活かす：行政からの声かけ威力大

\* 自分が暮らす立場を活かす

自分が生きてきた中での  
つながりを活かす。

同級生、同窓生、PTA仲間、趣味仲間、顔見知り・・・



## ポイント④ 地域支援の推進役の人材・チームを 育てる

行政、地域包括支援センターの重要な役割は、

\* 地域の人たち(専門職も含む)が主体的に考え、  
動く力・支えあう力を伸ばしていくこと。

\* その推進役・チームを地元で育てていくこと。

⇒ 結果として、内実を伴った、地域支援・連携が進む。  
持続的に発展する。

行政職員、地域包括支援職員のみが  
主導的に推進役を果たしつづけていると・・・

・住民、専門職のお任せ、依存状態が強まる。

・行政・地域包括の負荷が増す一方。

⇒ 機能停止状態に陥る。

・縦割りが解消しない。

・担当者が変わると、賽の河原状態。

⇒ 地域支援・連携・支援体制づくりが進展しない

**\*参加者より情報提供**

**○大阪府泉南市**

**泉南市認知症コーディネーターについて**

**○宮城県大崎市**

**大崎市認知症地域支援推進チーム育成の取組み**

**ポイント⑤ 地域支援を最前線で実践する人を育て、  
そのつながりをつくる**

- \* 認知症の人の支援・体制づくりは、人で決まる。
- \* 古い考え方ややり方ではなく、これからの認知症の「人」の生活、支援のあり方を理解し、日々の中で実践していく人材を地元で着実に増やしていくことが必要。
- \* バラバラな講座・研修ではなく、住民～多様な専門職までを一体的に育て、つながりとチームを創りだす新たな考えと方策が必要。
- \* 共に動く地元の人材・チームの育成を、「よそまかせ」にせず、自治体/地域で計画的に育てていくことが重要。

## ポイント⑥本人・家族と支援者が地域で出会い、 支えあう場(地域拠点)を育てる

既存の相談窓口は・・・

- \* 本人・家族、地域の人にとっては  
(物理的・心理的に)遠い、敷居が高い。
- \* すべての人を既存の窓口で受けていたらパンクする。  
今後の数の予想を冷静にみよう。  
⇒もっと、身近なところで気軽に行けて、  
関わりやつながりを継続的に持ちやすい場が必要。  
⇒一部の人のみがつながれるのではなく、より多くの人がつながれる多様な場を小地域内に作る  
\* 地域にある場をとことん活かす

出会い・つながれる場を、生活圏域ごとに  
つくる、増やす、育てる

- \* 当事者が日常的に通り、立ち寄りやすい  
(既存の)場を探す、活かす
- \* 地域の多様な人たち・資源とともに  
いっしょにつくり、育てる
- \* 地域包括支援センター職員や保健師、  
医師等が出むき、出前相談を。



地域の空き屋を借りて



診療所の空きスペースで



施設の玄関わきを活かして

学童クラブに併設して

## 実例⑩秋田県大曲仙北地域

サービス事業所の職員たちが、  
サポーター講座をきっかけに  
「なんでも相談所」を始めた。



- ・認知症や介護の基本的なことを知らなかったり  
些細なことで困って、情報や相談を求めている人が  
身近なところにたくさんいる。
- ・介護のプロとして、自分たちがふだんやっていること、  
知っていることを、ご近所の人たちに役立てて  
もらえないだろうか・・・？



## 自分たちが、何かやれることがないか？

「認知症なんでも相談所」をやれないか？

⇒市内の数か所からスタート。

⇒1年後には地域内の全事業所、

49か所が身近な地域の相談場所になった。



できる範囲で相談に応じる。

入ってきた相談内容を地域包括に伝える。

応じられないことは地域包括支援センターにつなぐ。

⇒半年ごとに包括が相談・対応内容をまとめる

⇒行政が、全体の相談・対応内容をまとめる

⇒事業所にフィードバック。話し合い。レベルアップ！

### 職員の声

市や包括に相談するまでじゃないが…  
という人が立ち寄って、話していけます。  
地域の人や行政とのつながりが増えました。  
事業所や職員にもメリットが大です！



## ポイント⑦ 本人・家族と地域の人、専門職が共に 話しあい、一緒に楽しく活動する機会をつくる

行政や地域包括支援センターの職員、専門職のみでは、

- ・いつもの発想ややり方の範囲内でとどまりがち。
- ・取組みを進めても、広がらない、深まらない
- ・住民がお任せ(依存状態)や義務的になり、長続きしない。

本人・家族、町の人たち、専門職が集まり  
わが町のこれからのむけたアクションを  
具体的に話しあう機会をつくらう。

この町で  
何が必要か  
何をやってみたいか  
何ができるか、  
自由なアイデアを

話しあいだけで終わらずに、町に出て動き出そう。

☆一緒に汗を流す、共通体験をつくる

⇒やってみることで、(小さな)成果が生まれる(失敗も含めて)

⇒やってみたからこそその(小さな)成果を丁寧にキャッチして

広く広報していこう \*新たなつながり、アクションの呼び水にする

### 都会地で・・・



### 地方の町で・・・



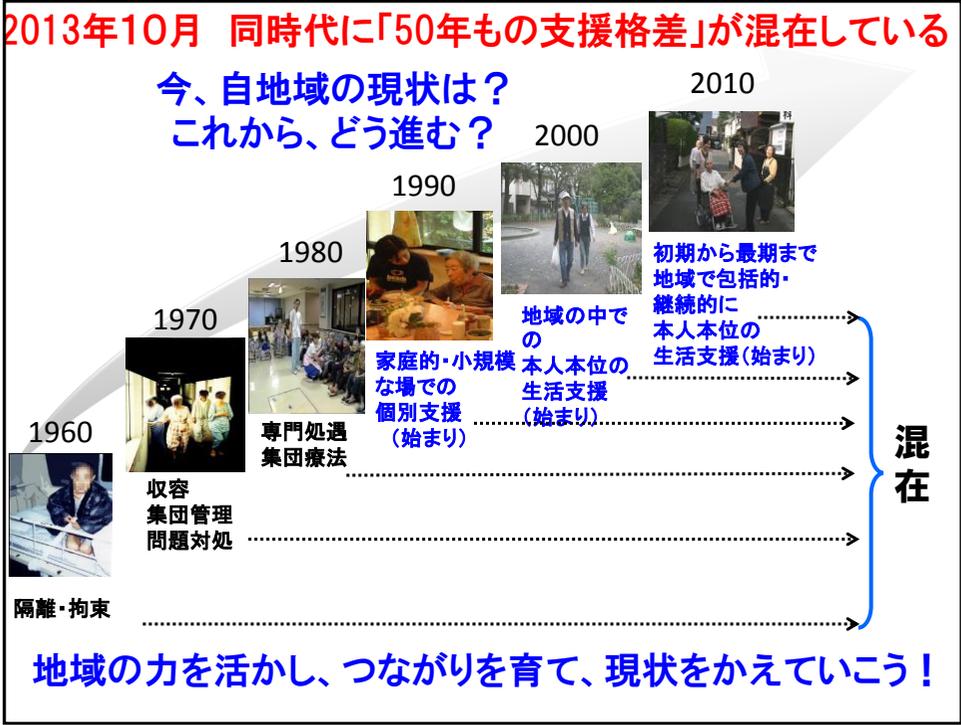
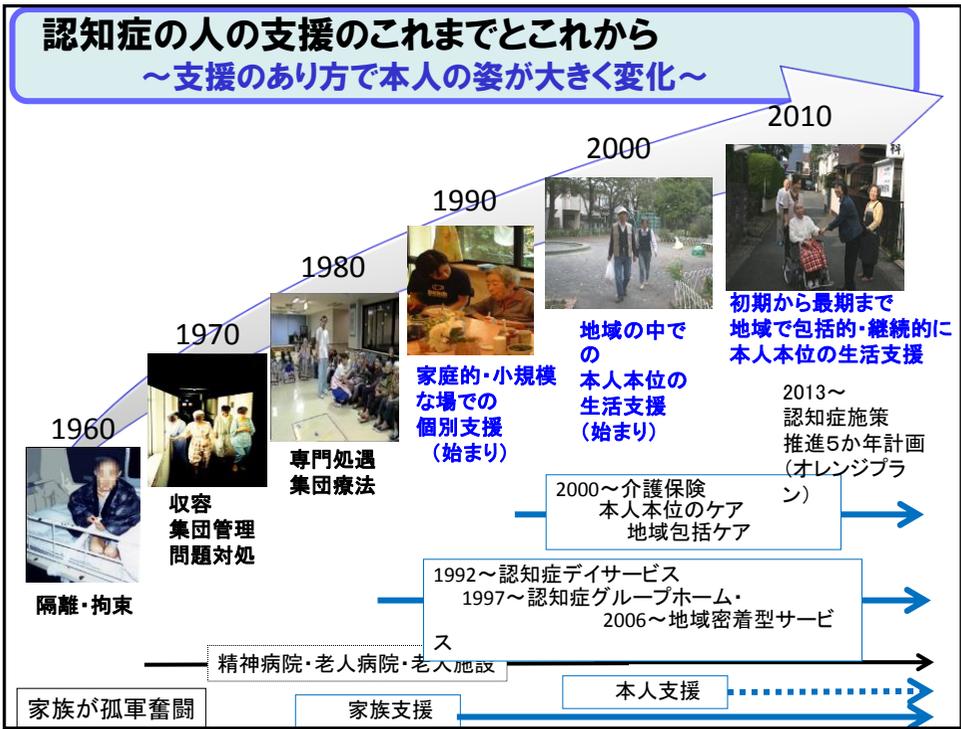
集まり話しあい、アクションプランを作り、とにかく動いてみる  
⇒つながりや支えあいの芽を大切に⇒伸びる力をもっている。

## 2)グループワーク

- (1) 得られた他地域情報をとことん自地域で活かそう
- (2) 今後の自地域の取組みの補強策を具体的に検討しよう
- (3) 実際に取組みを進めていく上でもっと知りたいことは何か？

## 6. 地元に戻って、よりよい取組みを進めるために

- ・ 今後の取組みのアイデア・ヒントを全体で情報交換
- ・ 「知りたいこと」Q&T  
参加者全員で、アイデアを出しあおう  
一緒に考えよう



「認知症」を通じて、人として大切なことやつながりが広がります。  
すべての人が暮らしやすい町に近づいていきます。

☆これから、自分が何をしていくか。

- ・一人の人、地域の可能性に光をあてながら
- ・あたりまえのことを大切に
- ・一人ではなく、地域の多様な人と共に
- ・無理をしないで。(小さな)できることから、息長



2日間、お疲れさまでした！

今回のセミナーをひとつのきっかけにして  
あなたの地元で、  
めざしたい地域の姿にむけて  
あなたが(小さな)アクションをおこしてください。  
伝える、話しあう、できることから一緒に。

これからも  
全国の他の地域で悩みながらも前に進んでいる  
仲間とつながり続けてください。

また、お会いできるのを楽しみに！  
☆第3回合同セミナー：1月23～24日です。